

# 「人と技術を大切に」、温暖化対策重視の経営に転換し、IHI再生の意欲と創造力を

## 「人と技術を大切に」し、意欲と創造力を生む職場に

IHIでは、長年、「人はコスト」という経営姿勢がつついています。現在、IHIでは、国内旅費制度、外国旅費制度などを切り下げた「特別対策」が延長されています。こうした経営姿勢こそ、労働者の意欲や創造力を低下させてきた根本原因です。

社長は、「従業員の皆さんの努力が業績向上につながる会社」に近づいたと述べていますが、労働者の努力が報われるよう、人類と地球の存続にかかわる、地球温暖化対策を企業の製品戦略の中心にすることなど、将来を見とおした経営戦略を明確にすることは、経営トップの重大な責任です。

日本の財政危機は深刻です。最近の円高は、いまの日本と世界が直面している経済危機の深刻さの反映です。輸出競争力や海外工事の収益にも大きな影響をおよぼします。こうしたもとで、試練に立ち向かう労働者の意欲と創造力を生み出し、IHIの再生と発展を安定的な軌道にのせるために、「人と技術を大切に」する経営への転換が不可欠です。

## 温暖化対策を重視する経営方針を

記録的な猛暑がつづき、熱中症による死者が過去最高になるなど、地球温暖化の影響が深刻になっています。生命を守るためにも、人類と地球の存続のためにも、温暖化対策は緊急の課題になっています。

IHIは、「地球と人類に豊かさや安全・安心を提供する」(「IHIグループビジョン」)ことを掲げています。しかし、IHIの経営方針では、低炭素社会をめざすとしているだけで、地球温暖化対策が重視されていません。

駐日英国大使館が発行した「地球温暖化：日本への影響」(〇八年)では、「低炭素社会へ移行することによって、二〇五〇年には五〇〇億ドル(約五〇兆円)相当の低炭素技術関連の市場が創設される」、「日本は、近い将来、価値が高まるであろう低炭素技術を開発することで、こうした新しい市場の恩恵を十分受ける」と書いています。

世界でも日本でも、温暖化抑止のための産業構造の転換や、ビジネス化の動きが活発です。IHIも、将来を見とおして温暖化対策を経営方針の全体に貫く必要があります。

## 職場風土が変わったと実感できる改革を

社長は、「IHIグループ意識改革運動 チェンジIHI」をすすめるために、IHIグループ全員に、自ら考え、発言し、行動することを求めています。また、入社式では、求められる人物像として「挑戦」「共感」「実践」「実感」をキーワードとしてあげています。

しかし、「挑戦」する意欲を弱め、同僚や先輩と学びあい、上司との率直な意見交換の障害になっているのが、成果主義制度、高齢基幹職処遇制度であり、安直な労働者への犠牲のしわ寄せです。こうした制度を廃止し、職場風土が変わったと実感できる改革が必要です。また、職場に差別と排除を広げ、自由な交友の障害をつくった、インフォーマル組織を、会社の責任で解散させることが不可欠です。

二〇一〇年一〇月

日本共産党石川島委員会

(TEL. 03-3647-5057 FAX. 03-3647-5376 cpishikawajima@bb.ne.jp)